

普及活動情勢報告（令和5年3月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ほうじ茶をほうじる香りに癒やされて ～高南地区農村女性リーダー先進事例研修～



お茶のほうじ方を学ぶ参加者

3月5日、日高村の株式会社霧山茶園において高南地区農村女性リーダー研修を開催し、女性農業者が6名参加しました。

同茶園では、女性2名が夫や後継者と共に役員として経営を担い、製品茶の販売拡大に向けて、商品開発や出張販売、茶体験などに取り組んでいます。参加者は、20haの広大な茶園内の体験施設で、ほうじ茶や茶缶作りを体験しました。お茶の香りに癒やされながら販売拡大と、次世代への日本茶文化の伝承を目指す女性達の熱い思いに刺激を受けていました。

普及所は、今後も関係機関と連携して、地域の女性農業者の活躍を支援していきます。

農福連携の推進に向けて ～四万十町農福連携フォーラム～



フォーラムの様子

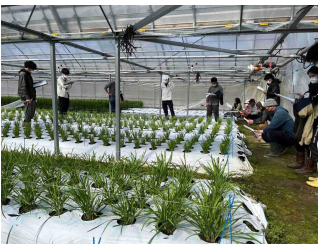
3月1日、四万十農協会館で「四万十町農福連携フォーラム」を開催し、関係機関を含め21名の参加がありました。

普及所は四万十町農福連携推進協議会事務局として運営を担ったほか、協議会のこれまでの取り組みについて発表しました。

基調講演として、県農福連携コーディネーターから農福連携の基本的な知識や現場での取り組み方について、活動事例を交えてお話ししました。

普及所はこれからも関係機関と協力し、農福連携を推進していきます。

次作の品種はどうする？ ～JA高知県四万十ニラ部会現地検討会～



現地検討会の様子

2月20、21日、JA高知県四万十ニラ部会の現地検討会が開催され、生産者のべ37名が参加しました。

普及所からは、栽培品種ごとの収量や品質面での比較データについて説明しました。

生産者からは、「次作の品種選びの参考にする」や「思っていた収量と違う」など様々な声が聞かれました。今後は栽培品種を変更した生産者へのサポートを行っていきます。

普及所ではこれからもJA等関係機関と連携し、ニラの産地振興に向けて取り組んでいきます。

新植・改植の際の品種はどうする？ ～JA高知県四万十ユズ生産部会～



視察研修の様子

2月28日、JA高知県四万十ユズ生産部会員を対象とした果樹試験場視察研修を開催し、9名が参加しました。

研修では、主にユズ短刺系統「高知果試選抜6号」、「同7号」について視察を行いました。参加者からは、「トゲが短く少ないことの有用性が理解できた」、「6号は7号に比べ、樹勢が弱いことが分かった。あまり手をかけずに樹をコンパクトに保つことができる6号の方が、複合経営が多くユズ栽培に多くの労力を割くことができない当部会には合うのではないか」といった声が聞かれました。

普及所は、今後も管内生産者に有益な視察研修をコーディネートしていきます。

収穫が本格化する夏場に向けて ～JA高知県四万十ミョウガ目慣らし会～



目慣らし会の様子

3月1日、JA高知県四万十ミョウガ部会の目慣らし会が開催され、生産者30名が参加しました。

近年大雨による川の氾濫や強風によるポリや天窓の破損等や夏場の暑さが過酷になっているため、普及所からは台風等の災害に備えるBCPや熱中症対策について説明をしました。

説明中は生産者同士で熱中症対策グッズの資料等を見ながら話し合う姿が見られました。

普及所は、今後も管内生産者に有益な情報を周知していきます。